

2003/9/2 朝日新聞

大子町の 窓から

中村祐司

この夏、韓国西南部の光州市郊外で、10日間ほど調査する機会を得た。韓国に六つある広域市の一つで、人口約130万人の大都市である。

店が連なる通りを歩くと、ところ狭しと掲げられたハンゲルによる原色の看板がいや応なしに目に飛び込んできて、文字を追っていると軽いめまいさえ覚えるほどであった。道路の道幅の広さや車が鳴らすクラクション音のけたたましさ、さらにバス運転の激しさなどにも圧倒された。

街並み 韓国人気質を反映

■5

しかし、何と言っても広大な平野や山を背にして林立している高層マンション群が目焼きついた。空間を最大限に利用した高層建築に人々が凝縮して生活しているかのようだった。そして、マンション群の隅には生活必需品を売る小規模の商店が一体となって並び、路上には農産物を売る市場が形成されていた。広大な公園は休日には家族連れなど老若男女でにぎわい、思い思いにくつろいでいた。

そこには日本の都市郊外とは異なる類の活気が醸し出されていた。都市景観にはその地域で職任を営む人々が醸し出す雰囲気や気質が、そのまま浸透していることを目の当たりにした、貴重な経験だった。

(宇都宮大学国際学部教授)